

News Release

Jリーグ所属の全クラブをビジネスマネジメント面からランキングした「Jリーグ マネジメントカップ 2018」を発表

J1 は川崎フロンターレ、J2 は松本山雅 FC、J3 はギラヴァンツ北九州がそれぞれ首位に

デロイト トーマツ グループ(東京都千代田区、CEO:永田高士 以下、デロイト トーマツ)のスポーツビジネスグループは、日本プロサッカーリーグである Jリーグに所属する J1、J2、J3 全クラブを対象に、ビジネスマネジメントの側面(経営面)で分析した、「Jリーグ マネジメントカップ 2018」を発表します。今回の発表において、J1 は川崎フロンターレ、J2 は松本山雅 FC、J3 はギラヴァンツ北九州がそれぞれ首位となりました。

スポーツビジネスにおけるクラブチームのマネジメントでは、いかに試合に勝つかという「フィールドマネジメント」と同様に、いかにビジネスとして収益を上げ、また事業拡大をするかという「ビジネスマネジメント」が重要です。「Jリーグ マネジメントカップ」は 2014 年より、スポーツビジネスの一層の発展に向けて事業や経営といった観点での関心と理解を広げることを目的に、毎年、発行しているものです。今回 5 回目となる「Jリーグ マネジメントカップ 2018」では、2019 年 7 月に Jリーグから公表された 54 クラブの 2018 年の財務情報など公開情報をもとに、ビジネスマネジメントにおいて重要なテーマである「マーケティング」「経営効率」「経営戦略」「財務状況」の 4 つの視点で計 13 の KPI を設けて分析しています。ランキングはそれぞれの KPI を J1、J2、J3 のディビジョンごとに数値化し集計したものです。

調査結果の詳細については[特設ページ](#)をご確認ください。

「Jリーグ マネジメントカップ 2018」ランキング上位結果

■J1

順位	クラブ	BMP 総計	マーケティング	経営効率	経営戦略	財務状況
1 位	川崎フロンターレ	171	52	21	58	40
2 位	鹿島アントラーズ	169	44	18	60	47
3 位	浦和レッズ	149	43	23	52	31
4 位	ガンバ大阪	144	47	25	44	28
5 位	名古屋グランパス	143	49	18	41	35

※数字はポイント数。BMP はビジネスマネジメントポイントの略

川崎 F が僅差で待望の初優勝！！

川崎 F はマーケティング分野で 1 位、経営効率分野で 7 位、経営戦略分野で 2 位、財務状況分野で 3 位、と各分野で好成績を収め、見事初優勝を飾りました。

好成績を牽引した要因は、平均 80%を超える高い集客率です。フロンターレブルーで埋め尽くされた満員のスタジアムの熱い雰囲気は、リピーター獲得の原動力となっていると考えられます。また、ホームゲームで開催されるエンターテインメント性に富んだ独自のイベントやファン・サポーターを飽きさせない工夫によって客単価の上昇を実現している状況が見られます。

■J2

順位	クラブ	BMP 総計	マーケティング	経営効率	経営戦略	財務状況
1位	松本山雅 FC	204	70	27	53	54
2位	ジェフユナイテッド千葉	190	67	22	52	49
3位	レノファ山口 FC	188	64	32	65	27
4位	FC 岐阜	166	43	27	49	47
5位	栃木 SC	165	36	24	60	45

※数字はポイント数。BMP はビジネスマネジメントポイントの略

松本、大差をつけて4年ぶりに優勝！！

松本は、マーケティング分野、財務状況分野で1位、経営効率分野で3位、経営戦略分野で7位となり、2位以下を大きく引き離しての優勝となりました。

松本は責任企業を持たない市民クラブであるがゆえ、地域に根付き愛されているクラブであることを証明するように高い集客力、平均入場者数を誇っています。収益のうち他クラブから突出しているのはグッズ関連利益額です。観戦必須アイテムだけでなく、コラボグッズや多種多様な雑貨・アパレルアイテムなどのさまざまなグッズ展開がグッズ関連利益額を押し上げていると考えられます。

■J3

順位	クラブ	BMP 総計	マーケティング	経営効率	経営戦略	財務状況
1位	ギラヴァンツ北九州	129	52	15	31	31
2位	SC 相模原	124	36	22	49	17
3位	鹿児島ユナイテッド FC	113	37	16	35	25
4位	ガイナレ鳥取	112	33	21	40	18
5位	FC 琉球	109	28	14	39	28

※数字はポイント数。BMP はビジネスマネジメントポイントの略

北九州、フィールドマネジメント(FM)面での不振をはねのけて初優勝！！

北九州はマーケティング分野、財務状況分野で1位、経営効率分野では7位、経営戦略分野では6位となり、初優勝を勝ち取りました。

北九州はFM面では昨シーズンJ3へ降格し、2018年シーズンは最下位に沈むという不本意なシーズンでしたが、試合の勝敗による集客や売上高の減少といった影響をビジネスマネジメント施策によって最小限にとどめ、安定した財務基盤を維持することができました。

■ランキングの算出方法

マーケティング、経営効率、経営戦略、財務状況に対して、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザーが独自のKPI(Key Performance Indicators: 重要業績評価指標)に基づいて項目別にランク付けを行い、そのランキングに応じたビジネスマネジメントポイントを付与していきます。各KPIは以下の通りです。

マーケティング: 平均入場者数、スタジアム集客率、新規観戦者割合、客単価

経営効率: 勝点1あたりチーム人件費、勝点1あたり入場料収入

経営戦略: 売上高・チーム人件費率、SNSフォロワー数、SNSフォロワー数増減率、グッズ関連利益額

財務状況: 売上高、売上高成長率、自己資本比率

- ・上記KPIに基づいてリーグ別にランキングに応じたポイントを付与(J1の第1位は18ポイント、J2の第1位は22ポイント、J3の第1位は14ポイントで、順位が1つ下がるごとに1ポイント減らす)
- ・最終的に4つのステージの累計ポイントによってランキングする
- ・BMポイントが同率の場合、マーケティング、経営効率、経営戦略、財務状況の順で順位が上のクラブを上位クラブとする

デロイトトーマツのスポーツビジネスグループ(SBG)について

クラブやリーグ、協会等競技団体の経営基盤の強化から観客・ファンの獲得、収益を最大化する商品サービスの開発、スタジアムの建設・運営管理など、スポーツビジネスを成功させるために解決すべき課題は数多く存在します。デロイトトーマツグループでは、財務会計、戦略、マーケティング・業務改革など、多様な分野のプロフェッショナルを擁し、スポーツビジネス領域におけるグローバルでの豊富な知見を活かしつつ、あらゆる面から事業支援を行う体制を整えています。

www.deloitte.com/jp/sports-business

デロイトトーマツグループは、日本最大規模のプロフェッショナルサービスファームとして有する圧倒的な専門性・総合力と、データ・アナリティクスやデジタル・テクノロジーに関する最先端の実践的知見を融合することで、経済社会や産業の将来像を指し示し、その実現に必要なとされる経営変革と社会イノベーションを加速させる「経済社会の変革のカタリスト」となることを目指しています。SBGの活動では、日本におけるスポーツビジネス領域での産業基盤の強化や、スポーツを核とした地域活性化モデルの構築などスポーツをハブとした「経済社会の変革のカタリスト」としての取り組みを推進しています。

<報道機関の方からの問い合わせ先>

デロイトトーマツグループ 広報担当 張

(デロイトトーマツコーポレートソリューション合同会社)

Tel: 03-6720-8300 Email: press-release@tohmatu.co.jp

デロイトトーマツグループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイトネットワークのメンバーであるデロイトトーマツ合同会社並びにそのグループ法人(有限責任監査法人トーマツ、デロイトトーマツ コンサルティング合同会社、デロイトトーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社、デロイトトーマツ税理士法人、DT 弁護士法人およびデロイトトーマツコーポレートソリューション合同会社を含む)の総称です。デロイトトーマツグループは、日本で最大級のビジネスプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務等を提供しています。また、国内約 40 都市に 1 万名以上の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイトトーマツグループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte(デロイト)とは、デロイトトウシュトーマツ リミテッド(“DTTL”)ならびにそのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの提携法人のひとつまたは複数指します。DTTL(または“Deloitte Global”)および各メンバーファーム並びにそれらの関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTLはクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドは DTTL のメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの提携法人は、オーストラリア、ブルネイ、カンボジア、東ティモール、ミクロネシア連邦、グアム、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ニュージーランド、パラオ、バプアニューギニア、シンガポール、タイ、マーシャル諸島、北マリアナ諸島、中国(香港およびマカオを含む)、フィリピンおよびベトナムでサービスを提供しており、これらの各国および地域における運営はそれぞれ法的に独立した別個の組織体により行われています。

Deloitte(デロイト)は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、リスクアドバイザー、税務およびこれらに関連する第一級のサービスを全世界で行っています。150 を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ Fortune Global 500® の 8 割の企業に対してサービスを提供をしています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約 286,000 名の専門家については、(www.deloitte.com) をご覧ください。

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited